

令和5年度第1回山梨県子ども・子育て会議 会議録

- 1 日 時 令和5年11月14日（火）10:00～12:00
- 2 場 所 山梨学院短期大学サザンタワー ST-301 教室
- 3 出席者（委員）
遠藤清香委員、小田切聡委員、窪田清委員、桑原宗彦委員、権守貞則委員、清水麻美委員、鈴木信行委員、立川信子委員、内藤香織委員、原初美委員、廣瀬集一委員、福島陽子委員、村上加寿子委員、山岸正宜委員
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 県子育て支援局長あいさつ
 - (3) 議事
 - (4) 子ども・子育て施策に関するこども・若者の意見聴取
 - (5) 閉会
- 5 会議に付した事案の件名
 - ・ 第二期やまなし子ども・子育て支援プランの実施状況について
 - ・ 山梨県こども計画策定のためのアンケート調査について
- 6 会議における主な意見
(第二期やまなし子ども・子育て支援プランの実施状況について)
 - ・ 計画の取組目標は達成されそうということで、それは喜ばしいことであるが、出生率を見たときには計画の成果があがっていないと言え、計画どおりに進んでいるのに成果があがっていないところに現行の計画は課題がある。次期計画を策定する際には、なぜ計画どおり進んだのに成果が上がらなかったのか、その視点からしっかり検討し、成果があがるような計画を作成していただきたい。
 - ・ 言語聴覚士が教員として正式に採用される県があるが、ぜひ山梨県でも、インクルーシブ教育の実現に向けた人材育成や体制の整備に力を入れていって頂きたい。
 - ・ 医療的なケアに関する部分だけでなく、男女の分けなども含め、様々な違いを包摂した、寛容な社会になっていくと、山梨に住みたいと思う人も増えていくのではないかと思う。
(山梨県こども計画策定のためのアンケート調査について)
 - ・ 計画の策定にあたっては、子育て支援サービスに対する潜在的ニーズを掘り起こすために各市町村で調査を行うと思うが、この結果を利用実績に併せて調整をするようなことはしないで頂きたい。利用をしたい人がいても、予約がいっぱいで利用ができなかった場合、その断られた人数は利用実績に含まれていないので、利用実績を今後必要なサービス提供量としてしまえば、サービス提供量が足りなくなるのは当然である。現行の計画ではそうしたことが行われたため、今、サービス提供量が足りないという状況が発生してしまっている。これは潜在的ニーズを把握しながら、適切な数値を目標としなかったという点で、現行計画の反省すべき点だと考えている。

- ・ 出生数が10年前の半分程度になっている市町村も多い、放っておけば、これから先の10年はもっと急激に出生数は減っていく。ぜひ次期計画についてはひりひりした感覚を持って、計画を考えて頂きたい。
- ・ 市町村とも強く連携し、成果のあがる計画になるよう進めていただきたい。
- ・ アンケート調査案の「家事の夫婦における分担状況」という設問についてはとても良い設問だと思う。カナダとかスウェーデンでは3年パパ育休を取得したら家事と育児の参加率が上がり、出生率も上がったというデータもある。
- ・ 現場では産後パパ育休が取りづらいという声もよく聞くので、母親の育休は割と取りやすくなっているようだが、父親の方でなぜ取れないのかという理由がわかるようにアンケートを設計して頂けると良い。
- ・ 父親と母親の間で育児負担に偏りがあるため、父親は二人目が欲しくても、母親は一人で十分と考えるというギャップが生じてしまうという話も聞いている。
- ・ 計画を立てるときの調査は、何を狙った調査とするかが重要である。
- ・ 事業計画をつくる際には、アウトプット指標とアウトカム指標の二つを意識することが必要である。アウトプット指標は、最終的な目的のためにこういう事業をやって、その事業が成功したかどうかの指標であり、アウトカム指標はその結果、何が達成できたのかというものである。こども計画をつくる際にはぜひ、アウトプット指標とアウトカム指標を分けて立てて頂きたい。
- ・ 指標の立て方によって計画の内容はまったく変わってくるので、アウトカム指標という形で明確に目標をたてて頂きたい。
- ・ 現在の調査票の案は全体像を把握しようという内容に見えるが、それよりも打って出る方向をどうしていくのか、何が必要なのかということを考えて行く必要があるので、それを踏まえて設問を考えて頂きたい。
- ・ 調査票案の内容から「山梨の子育て環境の満足度」はアウトカム指標として置くことができると思うので、今回の結果をベースラインとして、それが5年後にどうなるかという形で追うこともできると思う。
- ・ 先日出された人口減少危機突破宣言とこのこども計画をどのようにまとめて行く予定なのかも、意識して計画策定を進めて頂きたい。
- ・ ぜひ県民にわかりやすいように計画をつくって行って頂きたい。
- ・ 家庭が一番中心ではあるが、家庭と行政を繋ぐ、保育園、幼稚園、認定こども園など、各児童福祉施設、子育て支援施設が有機的に繋がっていくことが重要であると思うので、そうした点も意識しながら作業を進めて頂きたい。
- ・ アンケートについては、そもそも読めない方もいるかと思うので、アクセシビリティについても意識しながら設計して頂きたい。

(子ども・子育て施策に関するこども・若者の意見聴取)

<子育てに対するイメージについて>

- ・ 子育てに対するイメージについては、子どもと一緒にいる楽しさであったり、子どもの成長とか幸福感を見いだしたりといったポジティブなイメージももちろんあると思うが、自分の中で、子育てに対して最初に思い浮かぶイメージは、親の負担とい

うものである。

- 子育ては拘束時間が長いことによって、肉体的にも精神的にもすごい負担になると聞いたことがあるが、精神的負担は肉体的負担よりも第三者から見えづらいので、特に必要だと思うのは親の精神的負担への対策だと思う。
- 子育てに伴うストレスは、子どもに責任を押し付けるようではなかなか自分から他の人に話しにくいと思うので、第三者がしっかりと話を聞いてくれて、親がその第三者に継続的に相談ができる、そのような人がいてくれると親はストレスの解消に対して積極的な姿勢になれると思う。
- 私自身は、子育てに子どもと接することは楽しいとかそうしたイメージを持っていたが、周囲では経済的な面で、本当に子どもを養っていけるのかわからないから、正直に言って子どもを産むか産まないか悩んでいるなど、不安要素を持っている人が多くいました。
- 子育て施策については、地域によって施策に違いがあり、とても良い対策を行っている地域があっても、それが共有されていないという現状があると思いました。
- 難しいとは思いますが、地域と地域が繋がって施策や意見を言える場所があると良いのではないかと考えました。
- 私の子育てに対する意見ですが、やはり子どもは可愛いというのはもちろんですが、大変だったり、辛いことが多かったりだとか、夫婦での考えの違いがあったりとかして、悩みに繋がってしまうのではないかと思います。
- もう少し経済的に余裕があったら子どもをたくさん産めたりするのかなと思います。私の周りには、どんな制度があってもどんなお金がもらえるのかというのを知らない子がたくさんいるので、このまま知る機会がなく、そうしたことを全然知らないまま子どもを妊娠・出産していくと、もらえたはずのお金がもらえないとか、利用できたはずの制度が利用できないとかいうこともあると思うし、支援があることも知らずに出産を諦めてしまうということもあると思うので、制度を増やすということももちろんですが、どんな制度があるのかをもっと若者にもわかりやすいように、周知を行っていただくと、もう少し子どもを産んでもいいかなという方も増えるのかなと思います。
- 自分の親を見ていて、仕事は父親がやって、家事・育児は母親がやるというイメージがまだある。
- 育児休暇については、制度としてはあるけれども実際は取りづらい雰囲気があって、取りたいけれども取れないという方もいると思うので、そういうところをもう少し取りやすい環境を作っていくことも大切なのではないかと思います。
- 精神的な負担というところでは、継続的に相談できる相手とか、匿名で自分の意見を相談できるネットワークとかチャット機能とか、みんなに周知できるネットワークとかグループがあるとストレスも減ると思います。
- 一番近くで女性のことを支えることができ、子どものことも見ることができる男性の育児休暇は、会社で必ず取りなさいという仕組みになっていくと子育てがマイナスのイメージにならないのではないかと思います。
- 子育てには相談相手が必要だが、現状は、保育園などに人が足りずその余裕がない

ため、もっと保育士などを入れて人が充実すれば、相談しやすくもなると思うので、保育園や幼稚園に職員を増やすことが子育ての支援にあたっては必要だと思います。

<結婚に対するイメージについて>

- ・ 私の結婚に対するイメージは、独り身の中で得られない幸せを得られるというもので、結婚することで、一人で使える時間は減ってしまうかもしれないが、子どもや夫など家族といることで得られる幸せもあると思う。
- ・ 結婚を視野にいていない人の中には、現時点で趣味や一人の時間が毎日充実しているという人もいて、自分の時間が充実しているからこそ、そうした生活を壊したくないと考える人もいるということを知りました。
- ・ 私の周りにも結婚をしたい人と、結婚はしなくても良いという人がいるが、結婚をしたいと思っている友人たちの中で、結婚にも年功序列ってあるよねという話がでた。職業にもよると思うが、女性が多い職場だったりすると、出産とか子育てを考えて、結婚をあまり若手のうちからするとあの子はまだ若いのにねとか言われてしまうことがあったり、あまり上司との関係を壊したくないということもあって、就職してすぐに結婚するのってどうなんだろう、ちょっと気まずくなっちゃうかな、などという意見があったので、そうした社会の風潮だったり雰囲気だったりが少しでもなくなっていけば、若い内から結婚について自分事として考える人が増えるのではないかと思います。
- ・ まだ結婚したわけではないので、結婚生活がどのようなものかはまだわからないが、生活には思ったよりもお金が掛かるという実感を持っていて、それを踏まえると結婚して二人分の生活費を賄っていくことを考えると、共働きであれば生活費は大丈夫かなと思うが、どちらかが働かないという選択を取った場合には正直言って、生活はかなり苦しくなってしまうのではないかと感じているため、パートナーの選択によっては結婚できないということもあるのかなという風に思っています。
- ・ 仕事と家庭内の家事の両立というのは男女平等に役割分担ができれば理想だと思うが、就職して最初のうちは、自分はスキル向上に努めていきたいと考えているため、家庭内の家事については頼ってしまう部分があると感じており、自分の中では家事などを平等に役割分担できる自信がないため、自分のことは自分で、全て自分で責任を持って生活した方が楽なのではないかと思っている。
- ・ 結婚については幸せというイメージも大きいかもしれないが、離婚だったり、パートナーとの間で意見が食い違って上手くいかないということもあるので、今の時代は必ずしも結婚が幸せ、ゴールではないという風に思っていて、私たちの世代では結婚イコール幸せというイメージはある。
- ・ 結婚は幸せな家庭を築く、新たな自分のスタートをきるころではあると思うが、そこで失わなくてはならないものもあると感じている。
- ・ 仕事を頑張りたいという思いを持っていても、結婚をして、子育てが始まると仕事もあまりできないかなとか、そうしたちょっとしたところで自分の思っていた理想の様な物も築けなくなってしまうのではないかと思っている。
- ・ 結婚したくてもできない人がいるのは、出会いの場がないことが原因なのではない

かと思う。自分には婚活パーティとか婚活イベントに参加する勇気はないので、婚活というよりは、山梨県の自然を活かした散策であったり、フルーツ狩りであったりといった、もう少しハードルを下げた、気軽に参加ができる出会いの場や、コミュニケーションが取れるコミュニティのようなものがあると、結婚したくても出会いがないという人は、もう少し結婚に向けた気持ちが作っていただけるのではないかと思います。

<格差・貧困について>

- ・ 小学生の時に縦割り班で活動する際に、視覚障害をもった子と一緒に活動する機会があり、その活動の中で、障害があっても人とのつながりがあれば楽しく過ごすことができるのではないかという思いを持った。
- ・ 格差の解消には、人と人とのつながりの機会が重要になるのではないかと思います。新型コロナウイルス感染症の流行により、人とのつながりが減ってきていることは事実だと思うので、こうした問題を改善するきっかけづくりもしくは、どんな状況の人でも情報を取得できる社会を目指すことができると思うのではないかと思います。
- ・ 私が感じる格差は、習い事ができる子とできない子がいたりとか、家族で旅行に行ったり行けなかったりする子がいるということで、これらは必ずしなくてはいけないことではないので、特別にお金をかけて支援をしなければいけないということではないと思いますが、友達と話をしている時や、受験などで今まで頑張ってきたことやこれまでに一番印象に残っていることなどを聞かれた時に、自分には経験が人より無いと感じるという、そういう問題は現状であると感じています。
- ・ 格差というところでは、性別によっても偏見があるのかなと思っていて、アルバイトなどの中でも、女の人には重いものは持たなくて良いなどのように、女の人はこちら、男の人はこちらという風潮があって、これも格差の一つなのかなと感じています。
- ・ 小学校の頃に、可愛い鉛筆を持っていたり、可愛い服装だったりする子とは仲良くしよう、可愛い物をあまり持っていない子とは仲良くしてもみたいな空気はあった。

<山梨と都会の違い、山梨で働くことを選んでもらうことについて>

- ・ 山梨県の娯楽としては、富士急ハイランドやイオンモール、ラザウォークなどが思い浮かんでくるが、それらは人が多く住んでいる甲府市からは離れているため、中学、高校の頃には不便だなと感じていた。
- ・ 仕事の面では山梨県は都会と違って自然が豊かで、別荘とか、山梨県の良さを活かした仕事もあると思うので、そうした良さを活かしたり、後は非常に単純な話ですが、商品券とかポイントがたまるなどの特典を付けたりすると、他県から来る方も働いてくれるようになるのではないかと思います。
- ・ 確かに遊ぶところは都会の方が多いと思うが、山梨県には山梨県の魅力があり、富士山がきれいだったり、富士五湖があったり、自然豊かできれいな場所であるという魅力があると思っているので、そうした魅力を都会の人などに伝えることが必要だと思う。
- ・ 都会では人が多いため人と人とのつながりが浅く広くなると思うが、山梨県では地域の人と協力してとか、地域に密着してとか、人との交流が深い仕事に就ける可能性

が高いところがあると思うので、地域の人のために仕事をしたいという人がいれば山梨県で働くことを勧められると思います。

- 都会は相応の遊び場とか娯楽施設が充実していると思います。
- 山梨で生活して働くことに関しては、地域でのつながりという点に力を入れてもらいたい。地元の企業がどのようなものがあるかであるとか、そうしたことを細かく知っている大学生は少ないのではないかと思うので、地域でつながって、学生向けに就活イベント等を行っているところも多いと思うが、そういうところも大々的に宣伝していただいて、これから働こうとしている大学生などに、積極的に広く周知していただきたい。
- 様々な趣味を持った人が一堂に集まるような大きなイベントが、近くで開催されると山梨がすごく魅力的になるのではないかと思います。
- 山梨のイメージは何もないという言い過ぎかもしれませんが、それに近いイメージがあり、山梨で友達と遊ぶとなるとご飯を食べに行くか、自然を見に行くかの二択になってしまい、ちょっとおしゃれな買い物をしたいとか、コンサートに行きたいとなると、基本は都会に行かないといけない。そうした時に、都会に行って帰ってくると、山梨にないものが見えて、都会に行きたいという気持ちになるのではないかと思います。
- 山梨はどうしても遅れているというイメージが若者の中にあるが、山梨の企業がどういうことをしているかといったことをもっと若者に知ってもらおうと共に、育児休業がちゃんと取れるとか、育児休業をとってもその後の自分のキャリアにあまり影響しないとか、そうした体制をしっかりと整えて、山梨だからこそできる何かを売り出していけると良いのかなと思います。
- 山梨県と都市部の間で感じる差は選択肢の多さという部分だと思いますので、それを踏まえて山梨を選んでいただくことを考えると、もし、その差を埋めていくのであれば、第三次産業の就労先を充実していくことが必要だと考えますし、より山梨県としての特徴を伸ばしていくのであれば、25人学級などの教育面での手厚さに注目し、保育士や教師の給料を全国と比較して良いものにするなど、目を引く部分をつくることで、山梨で働くということへの動機付けをつくっていくことが必要だと考えます。
- クリスマスとか大きい行事の時とかに、都会はイルミネーションがあつたり、大がかりな取組を行っている商業施設であつたりが多いので、山梨でも自然豊かだからこそできる何か、大きな事をやるのも良いのではないかと思います。
- 山梨イコール車がないと生きていけないというのがみんなの印象なので、もう少し交通の便が良いと思います。
- 自分も子どもができたときに、安心して仕事に行けるように、入りたい園に絶対入れるようにしてくれたら嬉しいと思います。